

## 令和 5 年度 学校経営報告書（自己評価）

|      |    |     |              |     |       |
|------|----|-----|--------------|-----|-------|
| 学校番号 | 78 | 学校名 | 浜松工業高等学校 定時制 | 校長名 | 花崎 武彦 |
|------|----|-----|--------------|-----|-------|

本年度の取組（重点目標はゴシック体で記載）

|   | 取組目標  | 成果目標   | 達成状況                               | 評価 | 成果と課題   |
|---|---|--|------------------------------------|----|---|
| ア | ものづくりの過程で創造力や問題解決能力を育成する。   | 「実験実習に興味を持って取り組むことができた」と回答する生徒の割合 90%以上          | 「実験実習に興味を持って取り組むことができた」生徒の割合 97.1% | A  | 95%以上の生徒が実習に興味を持って取り組むことができた。合同文化祭にて課題研究の発表を行うことができた。生徒が解決したいと思える課題を提示し、その課題に対して取り組みやすい環境を提供できた。                                  |
| イ | <b>外部機関と連携した就労支援を在籍時より行い、社会での有用感を育て勤労の意欲と社会に貢献できる実感を持たせる。</b>       | 「今年 90 日以上働くことができた」と回答する生徒の割合 60%以上              | 「今年 90 日以上働くことができた」生徒の割合 70.1%     | A  | 60%以上は達成しているが、職に就いていない者、仕事が工業系でない者が各学年にいる。浜松商工会議所と連携した就業支援事業を通して 1 名正社員就業内定を得た。またマッチング率も昨年度に比べて改善した。この就業支援事業と生徒の在学中の就労をより連携させていく。 |
| ウ | 生徒が資格等を意欲的に取得する体制づくりを構築する。  | 計算技術検定の合格者 25 人以上<br>情報技術検定の合格者 10 人以上<br>(延べ人数) | 計算技術検定合格者延 39 人、<br>情報技術検定延 10 人   | A  | 計算技術検定の合格率は向上したが、情報技術検定は C 言語の問題が本校生徒には難しかったが目標合格者人数になんとか到達した。生徒の学ぶ意欲の向上と、教員の個に応じた指導を継続していきたい。                                    |
| エ | <b>あいさつの励行やほめる声かけにより生徒が自己肯定感を高めるとともに学校が安全安心な場所として認識することで愛校心を育む。</b> | 「あいさつがしっかりできた」と回答する生徒の割合 90%以上                   | 「あいさつがしっかりできた」生徒の割合 97.1%          | A  | 「あいさつがしっかりできた」と答えた生徒の全てがお互いが目を合わせてあいさつできた状態とは言えない。今後は質も意識したい。   |
|   |   | スクールカウンセラーの活用や養護教諭の助言等、専門的な立場からの指導を仰ぐ。           | スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーの活用事例なし    | B  | 生徒達の活用はなかったが、スクールカウンセラーとの連携は取れ、諸々助言をいただいた。  |
|   |   | 「大きな声で校歌を歌えた」と回答する生徒の割合 60%以上                    | 「大きな声で校歌を歌えた」生徒の割合 71.8%           | B  | 上級生はコロナ世代ということもあり、なかなか校歌は歌えない。一方下級生は徐々に歌おうという姿勢を見せてくれた。集会での声量は大きくなっている。   |
|   |   | 保健だより発行年間 10 回以上                                 | 保健だよりの発行 11 回                      | A  | 保健だよりの発行を欠かさずに行い、日常的かつ最新の情報提供を心掛けつつ、健康の意識付けに努めた。  |

様式第3号

|   | 取組目標                          | 成果目標  | 達成状況   | 評価 | 成果と課題   |
|---|-------------------------------|---|--|----|---|
| オ | 自分の命は自分で守る意識の高揚と交通マナーの徹底を図る。  | 交通安全に関する事業年4回、防災に関する事業年3回、薬学講座年1日の開催。重大な交通事故ゼロ。           | 車両点検実施2回・交通講話2回<br>防災訓練の実施3回<br>薬学講座の開催1回<br>命に別状はないが大きな交通事故3名 | B  | 年度当初より交通事故が立て続けに起こった。事故の内訳としては自損事故が多数のため、生徒が加害者になることは極めて少なかったが、骨折や歯牙破折など大きなケガを負った生徒が3人いた。自転車走行時におけるヘルメット着用の有用性や通学路危険箇所の周知を徹底し、交通ルールの指導方法を再度見直す必要がある。              |
| カ | 学校ホームページの有効活用及び効果的な広報活動を展開する。 | 中学生の学校見学30人以上、中学からの問い合わせ40件以上                             | 中学生の学校見学41人、過年度生の学校見学7人、中学からの問い合わせ延べ43件                        | A  | 中学生等対象の学校見学では、工業を学ぶ魅力を伝えながら安全が最も大切であると伝えることができた。定期的な記事更新には尽力したが、デザインに関する抜本的な変化には至らなかった。第三者の意見に傾聴し、必要な情報を今一度精査したい。   |
| キ | 教育活動が円滑に展開できる教育環境・職場環境の整備を行う。 | 夏季休暇100%取得<br>時間外勤務前年度比90%の実現                             | 夏季休暇取得100%<br>時間外勤務前年度比106%                                    | B  | 夏季休暇は100%取得を達成した。一方、時間外勤務は前年比+6%となった。特に部活動の大会が多い5月や8月、10月に時間外勤務が集中した。部活動の大会引率業務が一部教員に集中することがないよう、業務の分担については継続して注視していく。  |
| ク | 生徒の意欲を引き出す指導方法の確立を図る。         | ICT機器を活用して教育活動を展開する教職員100%<br>学校に「信頼できる先生がいる」と回答する生徒80%以上 | ICT機器を活用して教育活動を展開する教職員100%<br>学校に「信頼できる先生がいる」生徒の割合94.4%        | A  | Chromebookが生徒に普及したことにより、授業内でICT機器を活用する場面を昨年と比較すると多く見かけたが、実習・体育などの実技系授業においては活用する場面をさらに模索する必要がある。生徒からの信頼については、授業やクラス運営を中心に十分なコミュニケーションが取れており、多くの生徒の学習意欲の向上につながっている。 |